

第5学年1組 総合的な学習の時間学習指導案

大牟田市立上内小学校

教諭 廣松 忍

1 単元名 ふるさと再発見“米作りから学ぼう”

2 単元の見込み

- 稲の種蒔植えや田植え体験、米作りについて調べることを通して、農地水環境保全委員会(GT)の方々の話を基に、生産者の努力や思いを知り、上内の米作りや自然を守るために自分たちでできることを考えたり、上内のよさを見つけたりすることができる。【知識・技能】
- 米作りの体験活動や調べ活動を通して、農業生産と消費行動や自然が密接な関わりがあることが分かり、上内米のよさを伝える内容や方法を考えたり、上内米や地域の自然を守っていききたいという思いをもったりすることができる。【思考力・判断力・表現力】
- 上内の米作りについてよさや課題を意欲的に調べたり、上内米のよさや自分達にできることを伝えるための内容や方法を友達と協働的に考えたりして、上内のよさを地域、他校の人々に発信することができる。【主体的に学習に取り組む態度】

3 単元について

(1)教材観

本単元に関しては、地域の方との米作り体験を通して、地域の「ひと・もの・こと」を活用し、上内米のよさや課題を調べていく中で、地域の方の思いや願いに気付くと共に、上内米のよさを他者へ発信したり、唐桑小学校の児童と交流したりすることで、地域のよさを実感し、地域への愛着深めたり、自然を守っていかこうとする態度を高めたりしていくことが期待できる。これらの学習を通して、未来に上内米を残すために、生産者だけが努力するのではなく、私たちが生産者、消費者、環境のことを考えて努力することが大切であることを理解することができる。

本単元の学習は、SDGs 15番目の目標である「陸の豊かさを守ろう」と11番目の目標「住みやすいまちづくり」を達成するための意識を高めることにもつながる。6年生では、さらに身近な自然環境や自然災害について考える学習へと発展していく。

(2)児童観

本学級の子どもたちは、これまで、4年生での総合の学習では、上内校区を流れる川の水質を調べ、川の水が米作りにも使われていることから、美しい水であることを理解している。また、社会科「米作りのさかんな地域」の学習では、米作りの作業や農家の方の努力について調べている。

そこで、地域の方との米作り体験を通して、上内米のよさや米作りを続ける上での課題を調べたり、GTの方にインタビューをしたりすることで、地域の方の思いや願いを知り、自分達にできることを考えることができるようにする。自然環境や農業生産に関心を持ち、自己の生き方とつなげて考えることができるこの時期に、本単元を取り上げることは、上内のよさを実感し、そのよさを伝えて守っていかこうというふるさと愛を育てる上で意義深いと考える。

(3)指導観

本単元の学習にあたっては、社会科「米作りのさかんな地域」の学習と関連付け、地域の方と共に米作りの体験を通して、自分たちの地域に愛着を深めるとともに、自分たちが住む地域の農業や自然を保全していかこうという思いをもつことができるようにする。

そのために、単元の導入『出合う・見通す』段階では、昨年度の活動を6年生から聞き、昨年度の成果や課題をもとに、上内の米作りについて調べてみたいことを出し合わせたり、地域の方（農地水環境保全委員会）と一緒に稲の種蒔植えや田植えの体験等を通したりして、「上内米のよさを調べ、もっと上内米のよさを広めよう」という本単元の課題を設定する。展開前段『ひろげる・ふかめる』段階では、上内米の特徴や生産者の努力や工夫など上内米の魅力を探る。また、定期的に稲の成長を観察したり、記録をとったりする中で、疑問に感じたことを農地水環境保全委員会の方やGTにインタビューをすることで、日常的な管理の大変さや生産者の努力や願いを理解できるようにする。展開後段では、上内米のよさを知ってもらうために、「上内米のよさを広めよう～上内米PR作戦！～」と課題を設定し、PRする内容や方法について話し合い、実践する。終末『いかす・まと

める』段階は、上内のよさと共に、上内の米作りや自然を守っていくために自分たちにできることを話し合い行動化することで、地域への愛着を深めると共に、お世話になった方々へ感謝の気持ちを伝えることができるようにする。地域内外にも発信できることを考え、上内の米作りのよさをまとめ、他校や海外の交流先であるメキシコの小学校にも発信していく。

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考力・判断力・表現力	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 生産者、消費者、環境のつながりを理解している。 ② 情報収集や整理・分析の仕方を理解している。 ③ 生産者の思いや願い、上内米のよさや地域のよさに気付いている。	① 相手意識や目的意識をもって、話し合っている。 ② 自分の考えの理由や根拠を明確にしながら他者と交流し、自分の考えを付加・修正している。 ③ 上内米のよさを発信する内容や方法を考えている。	① 自分で課題を設定している。 ② 意欲的に他者と協力して活動している。 ③ 自分ごととして、自分達ができることを考えたり発信したりしている。

5 ESD との関連

(1) 本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

相互性・・・米作り（農業生産）は自然と密接な関係にあり、地球環境も考える必要があること。

公平性・・・上内米（日本の食文化）を未来に残すために、生産者だけが努力するのではなく、私たちが生産者、消費者、環境のことを考えて努力することが大切であること。

有限性・・・日本の主食である米の生産も豊かな自然も限りがあるので、私たちが守っていく必要があるということ。

(2) 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

・未来像を予測して計画を立てる力（長期的思考力）

未来に上内米を残すために、米の生産と消費について考えたり、自分の生活を見つめ直したりする。

・コミュニケーションを行う力

地域の GT や生産者にインタビューをしたり、他者との意見交流をしたりすることで、自分の考えをつくったり発信したりする。

・つながりを尊重する態度

地域の「ひと・もの・こと」とつながり、自分たちにできることを考える。

(3) 本学習で変容を促す ESD の価値観

・世代内の公正

生産者も、消費者も、地球環境も豊かになるような食生活や消費行動が大切であることが分かる。

・幸福感を重視する

地域に愛着を持ち、それらを支える人々の思いに触れ、素晴らしさや自分たちが恩恵を受けていることを再認識すると共に、地域の人への感謝の気持ちを持つ。

(4) 達成が期待される SDGs

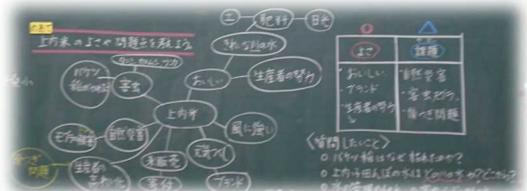
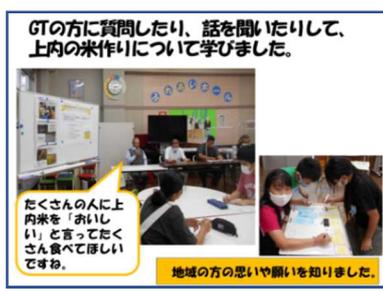


1 1 持続可能な都市

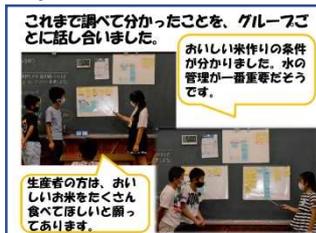


1 5 陸域生態系

6 展開の概要（全20時間）

主な学習活動 ・ 児童の反応	○指導上の留意点	◇評価
<p>1 GTの方との体験を通して、学習の課題と見通しをつかむ。</p> <p>(1) 農地水環境保全委員会の方(GT)と一緒に、稲の種籾植え体験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一粒の稲の種から芽が出て、たくさんの米が育つなんてすごいな。 今年はバケツ稲に挑戦して、大事に育てたいな。  <p>(2) 農地水環境保全委員会の方(GT)と一緒に、田植え体験をし、課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 手作業での田植えは時間もかかるし大変だな。 今は機械化が進んでいる。 おいしい米が育つといいな。 おいしい米作りの条件を調べたいな。  <p>(3) 調べる内容や方法を話し合い、計画を立てる。</p> <p>【調べる内容】(例) 【調べる方法】(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 米作りの方法 米作りの課題や工夫 環境保全 本や資料 インターネット インタビュー 	<p>○GTの方から稲の種籾植えを教えていただき、稲を大事に育てていこうという意欲を高める。</p> <p>○GTの方々と一緒に田植え体験をすることで、上内の地域や人、上内米へ親近感を持つことができるようにする。また、体験活動を振り返り、課題意識を持つことができるようにする。</p> <p>○最終的には、地域だけでなく他の地域や他校に発信するというゴールを意識して、単元全体の見通しをもつことができるようにする。</p>	<p>ウ② (主體的)</p> <p>ウ② (主體的)</p> <p>イ① (思判表)</p> <p>ウ① (主體的)</p>
<p>単元のめあて 上内の米作りについて調べよう。</p>		
<p>2 課題を追究する。</p> <p>(1) 米ができるまでの作業、米作りに適した環境など調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 稲の観察(随時) バケツ稲は、どうして枯れてしまったのか。 肥料や薬が必要だ。 稲穂が出ているね。  <p>(2) 上内の米作りのよさや課題、農家の方々の苦労や努力について調べ、まとめる。(GTの活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> おいしい米作りの条件 冷たくてきれいな水 米の生産と消費、環境について  	<p>○社会科「米作りのさかんな地域」の学習と関連付けることで、上内の米作りはどのような課題意識を高めるようにする。</p> <p>○事前にGTの方と打ち合わせを行い、学習の意図や質問内容を伝えておくことで課題解決を図ることができるようにする。また、上内の米作りの特色や地域の方の思いや願いに触れたりすることができるようにする。</p>	<p>ア① (知技)</p> <p>ア②③ (知技)</p>

- (3) 調べて分かったことを、伝え合う。
- ・米作り農家の後継問題が大きい。
 - ・おいしい米づくりには、自然環境や水の管理が重要である。
 - ・もっと上内米のよさを広めたい。
 - ・おいしい米をもっと食べてもらいたい。



上内米のよさをもっと広めよう ～上内っ子米PR作戦！～

3 上内米のよさをより多くの人に伝えるためのPR活動について話し合い、実践する。

- (1) 農地水環境保全委員会の方(GT)と一緒に、米の収穫をする。
- ・稲の刈り方を教えていただいたので、上手にできた。
 - ・たくさん収穫できてうれしい。
 - ・これまでの稲のお世話や管理が大変だっただろう。
- (2) 調べたことを基に、する内容や方法を考える。
- ・PRをする場所は、どこがいいかな。
 - ・おいしい上内米のポイントを伝えよう。
 - ・農家の方の思いや生産者の顔が見えるようにするとどうかな。
- (3) PR活動の準備をする。
- ・上内米のよさをPRするためのリーフレット作り
 - ・PR動画の作成
 - ・FMタントでの呼びかけ
- (4) 米の販売に向けて準備し、販売する。
- ・米の袋詰めや宣伝(のぼり・ポスター)の工夫をして、上内米のよさを伝えたい。
 - ・たくさん買ってもらって、義援金を送りたい。



これから自分たちにできることを考えよう。

4 学習を振り返り、まとめる。

- (1) 学習を振り返り、これから自分たちができることについて考える。
- ・お世話になった地域の方へ感謝の気持ちを伝えたい。
 - ・上内の米作りが続けられるように、自然や地球環境について考え、行動していきたい。
 - ・これから、米の生産量を増やすためにも、私たちが米をたくさん食べるようにしたい。
- (2) 感謝祭を開く計画と準備をする。
- ・プログラム内容の検討
 - ・必要な準備と役割分担
- (3) 感謝祭を開き、調べたことを発表したり、感謝の気持ちを伝えたりする。
- ・学習したことの発表
 - ・感謝の呼びかけ
- (4) 他校に上内の良さを発信し、交流する。
- ※気仙沼市の唐桑小学校とTV会議(6年生)
 - ※国際協働学習(アートマイル)に取り組む。



- 調べて分かったことを伝え合うことで、さらに新たな課題を見出すことができるようにする。

イ②
(思判表)

- GTの方々と一緒に稲刈りを体験することで、上内の地域や人、上内米への愛着や感謝の気持ちを持つことができるようにする。

ウ②
(主体的)
ア③
(知技)

- 他地域に紹介するという相手意識や目的意識を持たせ、内容を精査することができるようにする。

イ①③
(思判表)

- 米販売やPR活動に向けて6年生と協力して役割分担を決めたり、実践したりできるように、活動の様子を見取り、助言する。



ウ②
(主体的)

- 一連の活動を振り返り、「地域愛、環境、生産と消費」の視点から自分の考えをもつことができるようにする。

ウ③
(主体的)

- 感謝祭を開くために、6年生と協力して準備できるように、活動の様子を見取り助言する。

ウ②
(主体的)

- 感謝祭では、お世話になった農地水環境保全委員会や地域の方を招待し、上内のよさや、感謝の気持ちを伝え、発信することができるようにする。

ウ③
(主体的)

- 相手校の発表を聞く中で、「持続可能な」という視点から共通点に気付き、ふるさと愛を深める。

ア③
(知技)

